

平成24年度第2回 横浜市立病院等安全管理者会議

日時:平成25年2月21日(木)
場所:横浜市技能文化会館

<はじめに>

今回は定例の部会報告や取組事例報告などと共に、第1回会議のグループワーク「他の病院はどうやっているのだろう? ~いただき!隣の医療安全~」を受けて、今後の中小規模病院における医療安全取組の支援について議論する場がもたれました。

進行役の議長を済生会横浜市南部病院の土橋さんに、各発表に対してのコメント、第1回グループワークについての概要説明と発表、討論会の進行を横浜市立大学市民総合医療センター 安全管理指導者の寺崎仁先生にお願いしました。



参加者
71名

参加病院
35病院

部会報告

横浜市立病院等安全管理者会議では、5つの部会があり、今回は、検査部会と臨床工学部会から発表していただきました。

臨床工学部会からは、医療機器における時刻合わせにまつわる諸問題の提起と、ガイドライン作成についての報告がありました。

大規模病院でも中小規模病院でも、医療機器同士での時刻のズレは医療事故を始めとした様々なイベントにおいて問題となることが改めて認識されました。

ガイドラインの作成は平成25年度に持越しとなっていますが、完成した際には当ホームページにて公開しますので、ぜひご参考にしてください。

検査部会からは、患者誤認事例の検討を行っていることや、部会で作成した転倒・転落チェックリストの運用、評価についての発表がありました。市内病院へのアンケート等を通じて、チェックリストが有効に活用されつつあることが明らかになりました。



(放射線部会と看護部会は資料配布での報告となります。
各部会の報告については資料をご参照ください。)

取組事例報告

市内病院の医療安全取組事例報告のセッションでは、社会保険横浜中央病院 安全管理者の鋤柄さんより「当院医療安全研修会企画を検証 ―6年間医療安全研修会アンケート結果の分析―」を発表いただきました。今までの医療安全研修会を総括する中で、災害研修会、「演劇：事例 急変時の対応編」など、創意工夫に富んだ様々な取組をされてきた事にフロアからも感嘆の声が漏れていました。寺崎先生からは、職員の医療安全研修はどの病院でも困っている問題であり、eラーニングなどが受講率アップのための方法として良いかもしれない、とのコメントがありました。



(取組事例の発表に関しては、資料をご参照ください。)

第1回グループワークについて

昨年度の企画部会では、「安全管理者が兼任であったり、定められていない病院では、まだ医療安全の取組で困っているところが多いはずだ」という問題提起がされたことから、今年度第1回会議では中小規模の病院に焦点を当て、「他の病院はどうしているのだろう？ ～いただき！隣の医療安全」と銘打ったグループワークを行いました。

本セッションではまず寺崎先生から安全管理者会議の成り立ちや、第1回会議のグループワークについて説明があり、その後2つのグループのリーダーから、成果発表がありました。

横浜鶴ヶ峰病院の五十嵐さんからは、「クレーム対応グループ」の成果が発表されました。

第1回のグループワーク以降も、交流会などを通じて情報交換を行っているとのことで、他の病院とのネットワークが形成された好事例だと思われます。



続いて、転倒・転落グループの済生会若草病院の鈴木先生から、グループとしての活動は満足にできなかったものという前置きのあと、自院における転倒・転落事故の現状について発表いただきました。月別・部署別・年齢別・場所別など多角的な分析が印象的でした。

討論会

寺崎先生を進行役に、「中小規模病院の医療安全取組支援のために」と題した討論会が行われました。コメンテーターとして汐田総合病院院長の窪倉孝道先生、東京SP(模擬患者)研究会の佐伯晴子さんにもご意見をいただきました。



また、転倒・転落グループリーダーの鈴木先生と、職員の意識向上(研修会、多職種の関わり)グループのファシリテーターである済生会横浜市東部病院の黛さんにご参加いただきました。また行政の立場として医療安全医務監の鈴木敏旦も参加しました。

窪倉先生からは、自院でも投書などを通じた苦情が寄せられており、それらの対処をしっかりと行うことが重大事故を防ぐことにつながる、とのご意見をいただきました。

佐伯さんからはSP研究会についてのご紹介があった後、患者の目線から、コミュニケーションがいかに重要かというお話を頂きました。

入院した患者は「何百冊もの教科書をいっぺんに与えられたような気分」と述べ、医療者がいかに患者の話聞くことができるか、そしていかに分かりやすい説明をして、患者が納得するか、ということが重要であると述べられました。患者は「どうしても聞かなきゃ」と思っている事でも、聞くタイミングがつかめないとそれが怒りにつながったりすることもある、というお話は、とても考えさせられるものでした。

次に、話題は今回のグループワークに移りました。黛さんから、初顔合わせ、短時間で問題意識の共有を行うことがとても難しかったという感想がありました(おそらく多くのグループがそのような感想を抱いたことと思います)。成功グループのポイントとして五十嵐さんより、「とにかく、(ワークとは別に)もう1回集まったことが良かったかもしれない」という意見があり、継続して集合することの重要性が認識されました。

窪倉先生からは、院内感染対策には診療報酬の加算がついてネットワーク形成が促進されたが、医療安全はネットワークへの診療報酬がない現状の中で、とにかく地道にこのような会を開いた

り、多面的に、継続的に取り組んでいく必要があるだろうというご意見をいただきました。医療機関同士、地域の中で手を組むような場面は少なかったので、今後に期待が大きいとおっしゃっていただきました。

若草病院の鈴木先生からは、発表となるとプレッシャーもかかるし、グループワークに出るのもやっとなのであるという現実的な意見をいただきました。寺崎先生からは「今回はワークと、その後の継続的な取組、そして成果発表と欲張りすぎたのは分かっています」とコメントがあり、会場から笑いが出る場面もありました。

フロアからは「グループとしては成果が出なかったが、自院ではワークの成果を持ち帰って実践し、効果をあげている」といった貴重なご意見をいただきました。また別の方からは、「途中でもう1回会合を開いてもらったら効果がより上がるのではないか」といったご意見もいただきました。

最後に寺崎先生から、「このように皆で議論を重ねて医療安全に取り組んでいる姿が、なかなか市民の方に伝わらない。継続的にこのような取組をおこなって、結果を周知していくことが重要である」と締め切らせていただき、盛会のうちに会議は終了しました。

最後に、24年度の会議を引っ張っていただいた寺崎先生、そして発表していただいた皆様、討論会に参加していただいた窪倉先生、佐伯さん始め、参加して下さったすべての方に感謝したいと思います。

討論会を含めた会議、アンケートの内容などを参考にしつつ、25年度以降の会議運営に活かしていきたいと思っております。



(医療安全課:東 記)

○アンケート結果(参考)

参加者71名中、66名からアンケートを回収しました。(回収率93.0%)
ご協力ありがとうございました。主な結果を下記にお示します。

○所属施設

一般病床中心の病院	80.3%
療養型病床中心の病院	7.6%
精神科単科の病院	10.6%
無回答	1.5%

○病床規模

～99床	12.1%
100～149床	4.5%
150～199床	18.2%
200床～	65.2%

○以前にも横浜市立病院等安全管理者会議に参加したことがありますか。

ある	63.6%
ない	36.4%

○職種

医師	4.5%	臨床工学技士	12.1%
看護師	40.9%	事務職	12.1%
診療放射線技師	12.1%	薬剤師	4.5%
臨床検査技師	10.6%	その他	3.0%

○取組事例発表、グループワーク発表の内容について

満足した	24.2%
どちらかといえば満足した	60.6%
どちらかといえば満足しなかった	12.1%
満足しなかった	1.5%
無回答	1.5%

○討論会の内容について

満足した	24.2%
どちらかといえば満足した	51.5%
どちらかといえば満足しなかった	13.6%
満足しなかった	1.5%
無回答	9.1%

○今後も会議に参加したいですか？

したい	87.9%
したくない	6.1%
無回答	6.1%

作成:横浜市健康福祉局 医療安全課